

米穀の新用途への利用の促進に関する基本方針のポイント

米穀の新用途への利用の促進に関する法律の目的

米穀の新用途への利用を促進するための措置を講ずることにより、米穀の新たな需要の開拓及びその有効な利用の確保を図り、水田の有効活用に寄与し、食料の安定供給の確保に資する。

現状と課題

【課題】

- 消費者における米粉の認知が増え、需要は拡大しているが、更なる利用拡大に向け、米粉の特徴を生かした利用方法の定着やコストダウンが必要。
- 「ノングルテン米粉の製造工程管理JAS」等の認証の更なる活用。一方、事業者においては、米国のグルテンフリー認証団体「GFCO」（グルテン含有量10ppm以下を認証）の認証取得等への関心も見られる。
- 米粉も原料用米や製法によって違いがある中、消費者にとって使用方法がよりわかりやすいような表示が望まれる。
- 米粉の需要拡大に対応して原料米の安定調達を確保していく必要。
- パン・麺用等の専用品種の生産・利用拡大を図る必要。
- 米粉用米・飼料用米の単収が主食用米と同水準にとどまっており、更なるコスト低減が望まれる。

米粉用米の生産量・需要量の推移



米粉の製粉コストの状況

	原料価格	製粉コスト	販売価格
米粉	50円程度	90~290円程度	140~340円程度
小麦粉	60~75円程度	70円程度	140~150円程度

【参考】

製造規模や製品の販売ロット（製造施設の稼働率や輸送費に影響）による米粉の製粉コスト等

- 製造量が年間約300トン以上の製粉企業
 - ・大口ロット（フレコン/10トン単位）：90円/kg程度
 - ・小口ロット（紙袋/1トン未満）：290円/kg程度
- 製造量が年間約300トン未満の製粉企業
 - ・大口ロット（フレコン/1トン単位）：200円/kg程度
 - ・小口ロット（紙袋/30kg単位）：450円/kg程度

施策の方向性

米粉の新商品開発や情報発信等を通じた需要創出とこれに対応した製造・販売規模の拡大、多収品種の開発・普及等を通じたコスト低減により、更に需要を拡大する好循環を形成する。

ポイント

- 米粉パンを含め、米粉の特長を活かした**新商品の開発**、米粉の利用方法の**情報発信**、**喫食機会の提供**、米粉や米粉製品の**製造能力の強化**等



WEBによるCM

- 海外市場も視野に「ノングルテン米粉の製造工程管理JAS」等のほか**海外制度についても周知・情報提供を強化**



特色JASマーク



米粉メニューの外食フェア

- 現行の「米粉の用途別基準」のほか、より消費者に**わかりやすい表示**についても検討



1番：菓子・料理用 2番：パン用 3番：麺用

- 生産者と実需者の**広域でのマッチング**

「ミスホチカラ」パン用品種



「越のかおり」麺用品種



- **パン・麺用等の専用品種の導入**とこれを活用した**米粉の製粉、製品開発**



一般品種

多収品種

- 米粉用米・飼料用米の**多収品種の導入**等による**生産性の向上**等

米
粉
の
更
な
る
利
用
拡
大